

なんたん 社協だより

2011.1

第9号

すべての住民のこころが輝く福祉のまちづくり



オープンランチ(美山)

新年あけましておめでとうございます。

皆様にはお健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中は、当会の運営に対し格別のご高配を賜り、心からお礼申し上げます。

さて、国内経済は依然として厳しく、子育てや介護に、まだまだ安心できる社会情勢ではないと言われています。このような時代にあって、今こそ地域社会のつながりを見直し、誰もが安心して暮らせる地域づくりを目指し、南丹市においてもさまざまな活動や支

ごあいさつ



社会福祉法人
南丹市社会福祉協議会
会長 田中 博

援の取り組みが行われております。

当会といたしましても、「すべての住民のこころが輝く福祉のまちづくり」を理念として、役職員一同、市民の皆様と一緒に地域福祉の推進に努めているところであります。市民に寄り添う社協として、事業・活動の充実を図るためにも、皆様のより一層のご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

結びにあたり、本年が皆様にとって明るく、幸多い年となりますよう、心からお祈り申し上げます。

地域での生活を守るために

本格的な少子高齢社会を迎え、高齢者が自宅で亡くなり、長期間気付かれない「孤独死」や親族との関わりをもたない「無縁死」が、深刻な社会問題となっています。

その予防策として重要なのは「地域での見守り」であり、現在、民生委員・児童委員やふれあい委員会を中心に、見守り活動が展開されているところです。社会福祉協議会でも、地域での見守り活動の一環として、民生委員・児童委員との連携を図りながら、以下の取り組みを行っています。ここでは、その活動内容について、紹介させていただきます。

弁当に言葉を添えて

～配食サービス～

私は平成22年1月に配食サービスの仕事に就きました。午後4時30分に20食あまりの弁当を受け取り配達しています。

今年の夏は猛暑による熱中症の救急搬送のニュースを数多く聞きました。いつも一人ひとりのお顔を確認し、弁当を渡すと同時に「水分を取ってくださいね」と声をかけています。

声をかけて返事が確認できない時は、近所の方に聞いて探し、姿を確認してから弁当を渡します。

「お弁当をもってきました～」と声をかけ、「ありがとう」「ごくろうさま」「今日はこれで晩を迎えられるわ」「あんた、その制服よう似おとるな」と、交わす会話もほんの10数秒のことですが、笑顔で交わし、一人ひとりのお元気を確認することができています。

「ありがとう」の言葉と「笑顔」に背中を押され、弁当を待ってくださる皆さまのもとへと出発しています。

(配食スタッフ)



地域の小さな輪がまたひとつ広がりました！

～ふれあいサロン～

サロン活動の恒例行事の一つとして「いっしょに遊ぼう会」を今年度も実施しました。

例年のない猛暑の中、熱中症の心配もよそに2ラウンド、みんなでグラウンド・ゴルフを楽しみました。和気あいあいと、ホールインワンに歓声も上がり、2時間があっという間に過ぎました。最後、小学生の皆さんからの一言感想の中で、「夏休みになったらラジオ体操をするので皆さんも参加してください」とお誘いがありました。

夏休みが始まると、朝7時からラジオ体操に地域の人10人程度の参加があり、地域に小さな輪が一つ生まれました。来年もこの輪が少しでも大きく広がりますように…。

(サロン協力者)



お話相手としてのつながり

～安心生活創造事業～

厚生労働省のモデル事業（平成21年度～23年度）です。近年、少子高齢化が進み、ひとり暮らし世帯や高齢者世帯、障がい者世帯が増加しています。そういった方の状況を早期に把握し、必要なときに援助につなぐことを目的とした事業です。全国58市町村で、京都府では南丹市のみで実施しており、市の委託を受け、社協が運営しています。

南丹市では日吉町・美山町をモデル地区とし、平成22年1月より事業展開しています。さまざまな調整を経て、現在80世帯余りが事業を利用されています。計10人の訪問員が定期的に訪問し、主にお話し相手を務めています。



安心して生活ができるように支援します

～福祉サービス利用援助事業（地域福祉権利擁護事業）～



この事業は「公共料金や税金の支払いが不安」「役所からくる書類や郵便物がよくわからない」「どこにしまったかよく忘れてしまう」等の不安を抱えておられる認知症や知的障がい、精神障がいのある方、その他判断能力に不安のある方を対象にしています。日々の金銭管理のお手伝いや手紙の代読・各種手続きを「生活支援員」が訪問し、支援します。

生活支援員は、支援計画に沿って必要な援助をしています。利用者が地域で「自立」した日常生活を送り、少しでも不安なく過ごせるように見守っています。また、利用者の意思に寄り添うように心がけています。

もちろん、個人のプライバシーは保護されます。

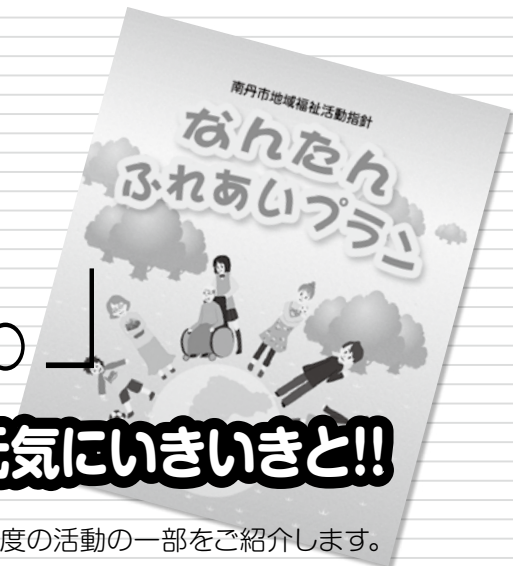
普段の訪問活動から

～ふれあい委員～

普段の訪問活動で、感じておられることをふれあい委員に聞いてみました。

- 今の問題は、悪徳商法を未然に防ぐことです。何もわからないままに高額のものを買わされたり、振込みをさせられたり…。独居でも家族の方が把握していれば良いですが、なかなか把握できないのが現状です。そこで、いつでも気軽に話せる関係作りを見守り活動を通して築いています。
- ふれあい委員だけでなく、地域住民みんなが見守り活動をしているという意識を持つと、より良い地域になるのではないのかなと思います。
- あんしんあんぜんチラシを持って回ると、話題もあるので声をかけやすいです。
- 自分たちの見守り活動から得た情報を、社協や行政へつないでいく…つなぎ役として住民に身近な存在でありたいと思っています。
- 楽しく見守り活動をしています。声をかけて喜んでいただいている姿を見て、こちらも嬉しい気持ちになれます。

「地域の未来を デザインする。」



「なんたんふれあいプラン」で、地域を元気にいきいきと!!

今回は、なんたんふれあいプランに盛り込まれている取り組みの中で、今年度の活動の一部をご紹介します。

～みんなで支え合う“地域づくり”が進んでいます～

ある地域の懇談会で、ふれあい委員から「年に1回ないし2回は懇談会をしてほしい」「ふれあい委員と民生委員との連携が必要だ」「地域のつながりが大切」など活発な意見をいただきました。

これを受けて園部支所企画小委員会では、今後の地域懇談会開催にむけての進め方や役割など決めました。

*企画委員会とは、なんたんふれあいプランを推進する中心的な委員会です。



～あんしん・あんぜんを地域の力で～



見守りネットワーク活動（高齢者見守り隊活動）

日吉町では毎月15日を「あんしん・あんぜんの日」として、その日の前後に、各地域の民生委員とふれあい委員が、おひとり暮らしの高齢者や高齢世帯で配慮が必要な方々を、安否確認のために訪問しています。

訪問時には、「あんしん・あんぜん情報」のチラシを持って防火・防犯・健康上の注意なども呼びかけています。

また近隣の方々や親族とも連絡を取り合いながら日々の暮らしの見守りをしています。

～八木町南地区 総合防災・避難訓練～

11月14日(日)午前7時50分。震度6の地震発生との想定で、消防団員の協力の下、住民の避難訓練が行われました。

この避難訓練は今年で3年目を迎え、自治会の行事として行っています。

広域避難場所である八木中学校に約500名が避難されました。

社協も災害救援ボランティアセンターの設置・運用訓練を実施し、ボランティアが炊き出し活動を行いました。

当日はおにぎりをつくり、即席のお味噌汁をつけて試食していただきました。薪でごはんを炊くのは初めての試みでどうなるか心配でしたが、ボランティアとして活躍された地元住民の皆さんの豊富な知識と経験で無事にボランティアセンターの役割が果たせました。



学生ボランティアにインタビュー

社協では、“福祉でまちづくり”をテーマに、障がいのある人もない人も一緒に楽しめるとりくみを、学生ボランティアや地域の皆さんと一緒に企画・実施しています。このとりくみに関わってもらっている学生さんたちに、それぞれの思いを聞いてみました。

学生ボランティア：新宅崇訓さん、竹本龍平さん（KASD京都建築大学校）

Q「ボランティアに参加したきっかけは？」

- ・「何かボランティアをやろうかな」と思っていたところ、校内の掲示板でちょうどボランティア募集のチラシを見て参加することにしました。
- ・建築をやっていく上で、バリアフリーを考えるとときに、障がいのある方々の実際の声や思いを聴いておきたいと思い参加しました。

Q「ボランティアをやってみて、どんなことを感じましたか？」

- ・自分たちで何かをつくりあげていくことは大変。特に多人数で一つのことを決めて行くのはとても難しいと感じました。でも学校ではできない勉強になります。
- ・いろんな外部の人と話すことがおもしろいし、とても勉強になります。
- ・大勢の前でしゃべるのはもともと苦手でしたが、行事で司会をして自信になり、いい経験になりました。

Q「これからどんなことをやっていきたいですか？」

- ・障がいのあるなしに関係なく、どんな人にも入りやすく、使いやすい建物をつくっていききたい。今はまだまだそういう場所が少ないので、どんどん増やしていきたいと思います。

学生ボランティア：高棕蘭さん（佛教大学）、辻恵梨子さん（龍谷大学短期大学部）、
松浦聖奈さん（京都中央看護保健専門学校）

Q「この活動に参加されたきっかけは？また、現在も活動を続けているのは？」

- ・高校生の時に、学校の先生から進められて、友達同士で誘い合って始めました。
- ・最初は、何をやるのかな、と戸惑いもありましたが、回を重ねるたびに、参加者の顔なじみもできて、楽しいと言ってくれるのがうれしくて、続けています。

Q「社協では、このような交流の場づくりとその広がり的大事だと考えていますが、広くみなさんへ伝えたいことは？」

- ・自分もいっしょに楽しもうという思いで参加してみたら、本当に楽しかったし、それが結果的に障がい者の参加にも役立っていればうれしいと思います。

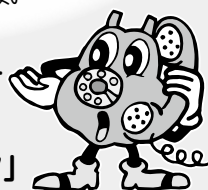


もしもしボランティア養成講座

	日 時	内 容	場 所
第 1 回	2月10日(木) 13:30～ 15:00	もしもし ボランティアって 何かな	園部公民館(大研修室)
第 2 回	2月17日(木) 13:30～ 15:00	「傾聴」の基本・心がまえ 演習： 電話での対応の仕方	
第 3 回	2月24日(木) 13:30～ 15:00	ロールプレイング 演習： 対話の訓練	

「今日は暖かいですね」

「お元気ですか？」



☆対象者……南丹市にお住まいの方

☆受講料……無料

☆受講後……「傾聴ボランティア」

「もしもしボランティア」

として活動していただくことができます

3回シリーズで勉強会をおこないますので、どの講座にも参加してください♪

お問い合わせは社協まで



日吉ふれあい福祉まつり



★と き／平成23年3月13日(日)

午前10時30分 開会

★ところ／遊youひよし

★内 容／ふれあいバザー、模擬店、
なんでもだんないショー

(舞台発表) など。

主 催：日吉町ボランティア連絡協議会

今年で、15回目となる「ふれあい福祉まつり」を開催します。

地域で活動されている団体・ボランティアをはじめ住民のみなさんの協力による手作りのまつりで、日頃は様々な場面で地域参加、活動している方々が一堂につどい、交流できる場にしていきたいと思います。みなさん、ぜひご参加ください。



第4回 南丹市ボランティア交流会が開催されました。

森圭一郎さんトークコンサート

歌うことは生きること～日本縦断1万2千キロ～

毎年恒例の南丹市ボランティア交流会が、今年は11月20日(土)美山文化ホールで行われました。16歳で事故に会い、車いす生活になった森さんの心に響く歌声に、会場全体が感動に包まれました。

■参加者の感想より

事故にあわれてから様々な葛藤を乗り越え、いろいろな事に気づき、まっすぐな元気いっぱいの歌声にとても感動させられました。一つ一つのメッセージが心に届きました。

また同日午前には、美山町ボランティア連絡協議会10周年記念行事が開催されました。

10年をふりかえるパネルディスカッションでは、美山中学校ボランティア部の生徒さんたちも参加して、普段の活動の様子やそれぞれの思いを語ってくれました。

「少年の主張」京都府大会で知事賞を受賞された片山若奈さん(美山中学校3年生)のすばらしい発表もありました。若い世代の活躍に元気をもらえたとの感想が寄せられました。



人として共に生き、見守るということ



わが子は、聴力を持たず、左手指全欠損の障がいを含め持って生まれた。

そもそも「耳」や「目」による認知能力は、人が最初に接する自然のありさまをとらえ、それに反応するための最も基礎的な能力であり、他の誰も教えたり補うことのできない、自身のみでなすものである。したがって、親は、子が健やかであることを確認するために、音や光に反応するといったことに注意を払うのである。しかし、わが子は、そうした反応を見せることなく、親子間でも意思の疎通ができぬまま育てることになった。

一般に、幼児期になれば、日々の生活の積み重ねから、身の回りの自立を習慣的に身に付け、いわゆる「人らしさ」が培われていくものであるが、わが子は、依然として全く聴力を持たず、また発語もなかったために、表情すら変えることがなく、あたかも自分の存在すら気付いていないかのようであった。

ろう学校幼稚園での懸命な療育指導にもかかわらず、言葉の存在を知らせきれずに就学期を迎えることになった。この頃になって、障がいの様相が重くかさなり合ったものとしてあらわれるようになり、制度や施策の足りなさを痛いほど味わった。また、社会的にのしかかる時間的な制約や経済的な負担、蔑視や偏見などに対しても、家族の誰もがよく耐えた。しかし、こうした経験によって、家族は丸一となって障がいと向き合い、障が

いへの理解を深めようとする姿勢を持つことができた。そうできたのは、比較的安定が続いた乳幼児期、表情は乏しくともわずかにひと時に見せるわが子の「人らしさ」、そして「人として共に生きることの大切さ」を、家族の誰もが知り得ていたからだと思う。

年を重ねるにつれ、障がいゆえに連鎖して起こる情緒の不安定さ、チック、多動、自閉、自傷、破壊、暴力、錯乱と次々に自律できない症状を深めていく子であっても、かつてひと時に見せた「人らしさ」を知る家族としては、包みこむように見守り、以前のような安定を取り戻せることをただ信じて待つことができるのである。

障がいから目をそらしたり、ともすれば「見えにくい障がい」に対する理解が深まらない社会であっては、今は家族と暮らすことでかろうじて安定していても、家族の支えが途絶えたとき、たちまち「人らしく生きること」ができなくなるのではないかという大きな不安と、いたたまれぬ気持ち、そして焦りさえおぼえるのである。

一日も一刻も早く、障がいに対して見えにくくなっているところにも人々の視野が広がり、理解が一層深まっていくこと、日常的に人々の見守りがあって、誰ひとりとして見落としや置き去りの不安が生じない、そんな幸せな社会が築かれることを望んでやまない。

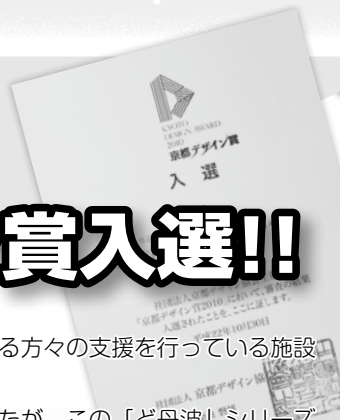
(市内在住 73 歳 男性)

あじさい園 京都デザイン賞入選!!

あじさい園（八木町）は様々な障がいのある方々の支援を行っている施設です。

以前からクッキー作りに力を注いできましたが、この「ど丹波」シリーズが誕生するまでには3年の歳月を要しました。その努力の甲斐あって、昨年、多くの企業が応募する「京都デザイン賞」に入選することができました。これも、多くの方々のお力添えあってのことです。この場を借りて、お礼申し上げます。

今後も皆様方に愛される商品が開発できるように日々努力していきたいと思っております。応援よろしくお願いします。



善意のご寄付ありがとうございました

(平成22年9月1日から11月30日受付分)

本所扱い

匿名寄付 3件 5,500円

園部支所扱い

「生身天満宮」武部昌英 様 100,000円…亡父の供養に
藤田 正 様 男性用肌着 多数
カラオケサークル園城堰会 様 20,000円…「ササガ」歌謡大会の収益金を福祉のために
シルバーカー 2台

TMK杯歌謡選手権事務局 様 31,790円…チャリティ歌謡選手権収益金を福祉のために
殿谷区子供会 様 4,000円…福祉のために
有限会社大栄興業 様 5,000円…福祉のために

タオル、風呂敷、電気毛布他
府営向河原区住民一同 様 20,000円…福祉のために
住民有志「高山しぐれ」 様 4,640円…福祉のために
大正琴園城会 様 33,022円…第21回大正琴演奏会チャリティを福祉のために
匿名寄付 1件 10,000円…車椅子借用お礼

八木支所扱い

山口 正博 様 200,000円…亡父の供養に
西田 忠弥 様 100,000円…亡父の供養に
八木 彰子 様 100,000円…亡父の供養に
広瀬 久男 様 100,000円…亡母の供養に
八木実登志 様 スボン・巾着 多数
福岡 晃 様 玩具 多数
入江 功 様 車椅子 1台

南北広瀬自治会 様 2,000円…福祉のために
南丹市母子寡婦福祉会八木支部 様 6,000円…ふくしまつりの売上金を福祉のために
匿名寄付 12件 301,282円

日吉支所扱い

福山 貞 様 100,000円…亡母の供養に
竹野 正治 様 200,000円…亡妻の供養に
吉田喜美代 様 300,000円…亡父の供養に
吉田宗太郎 様 100,000円…亡妻の供養に
湯浅 義文 様 200,000円…亡父の供養に
湯浅 貢 様 100,000円…亡父の供養に
内藤 勉 様 200,000円…亡母の供養に
日吉町傷痍軍人会 100,000円…会の解散により福祉のために
切手(3,040円分)

匿名寄付 2件 32,000円

美山支所扱い

瀬口 裕 様 5,000円…ワークセンターびびの運営のために
下田 敏晴 様 100,000円…亡母の供養に
美山町ゲートボール協会 様 29,250円…
チャリティゲートボール大会の募金を福祉のために
美山やすらぎホーム 様 44,400円…
福祉バザー売上金を地域福祉のために
匿名寄付 3件 170,350円



ご協力ありがとうございました。

★赤い羽根共同募金運動 合計 4,305,333円

★歳末たすけあい募金運動 合計 4,021,686円

(平成22年12月末現在)

私が仕事を始めてから8年が経ちました。現在は、本所で経理を中心に各支所の事業に必要な事務をしています。いつも社協の事務所に来ていただける方や電話をくださる方に、誰もが「ここに来てよかった」「話してみてもよかった」と思っていたけるような対応を心がけています。

仕事を通じて、たくさんの人と出会い様々な経験をさせていただく中で、社協の事業はいろんな機関や住民の方と協力して成り立っていること、地域住民の方の声を聞きながらその地域と向きあって取り組んでいかなければいけないことを学びました。そこで、地域でどんな活動がされているかを知るために、地域の情報誌をチェックしたり、休日にはなる

管理部総務課

小嶋

恵子

職員リポート

べく地域のいろんな行事に参加するようにしています。その時の住民の方との会話や活字の中から、次の事業につながる情報やパワーをもらっています。

社協は常に住民の方々に関心をもっていただける存在でありたいと思っています。けれども社協の事業は平日に行うことが多く、参加したくてもできない方もおられると思いますが、地域の方が安心して生活していただくためにいろんな事業を企画していますので、是非いろんな方に参加していただき社協を身近に感じていただきたいと思います。

これからもたくさんのお出会いに感謝しながら仕事をしていきたいです。

発行

社会福祉法人 南丹市社会福祉協議会

本 所 〒629-0301 南丹市日吉町保野田垣ノ内11番地 ☎ 0771-72-3220 FAX 0771-72-3222

園部支所 〒622-0014 南丹市園部町上本町南2番地22 ☎ 0771-62-4125 FAX 0771-63-5606

八木支所 〒629-0134 南丹市八木町西田山崎 17 番地 ☎ 0771-42-5480 FAX 0771-42-4412

日吉支所 〒629-0301 南丹市日吉町保野田垣ノ内6番地4 ☎ 0771-72-0947 FAX 0771-72-0732

美山支所 〒601-0751 南丹市美山町島住古瀬 8 番地 ☎ 0771-75-0020 FAX 0771-75-0829

ホームページ 南丹市社協

検索